

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500704		
法人名	社会福祉法人 不動産		
事業所名	グループホーム おとぎの国		
所在地	熊本県山鹿市鹿本町津袋585		
自己評価作成日	平成24年9月25日	評価結果市町村報告日	平成24年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F
訪問調査日	平成24年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームでのケア(生活支援)は、おとぎの国の理念に沿って、一人ひとりのペースに合わせたリズムで、時間を掛けて提供している。機能的に優れ、明るく開放感のある建物の造りや屋間の自由な面会時間・利用者皆様の表情等に、安心と安堵感を強く感じられる家族が多く、スタッフに限らず利用者の家族も、高齢(認知症の高齢者)になったら私もここにお願したいとありがたい話をされている。又、近所への散歩・地元の子供会や運動会等での交流の他、法人主催の夏祭りやバラ祭り・地域交流伝承事業・GH運営推進会議のメンバーを通じて、知人や地域の皆さんとのつながりがこの数年格段に広がってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の総合福祉施設の一つであるホームは「おとぎの国」そのままを思わせる外観で、手入れの行き届いた中庭や吹き抜け天井からの自然光が入り、のびのびとした雰囲気である。入居者同士や職員との会話は、食事に関する活動や趣味等、入居者のペースで思い思いの時間が過ごされている。法人と取り組んでいる地域との交流は継続して行われており、地域住民への認知症やホーム理解の啓発に確実に繋がっている。また、外出の機会を多く持ち、茶摘みや野外での活動等は、入居者の生活にメリハリをつけ、潜在能力の維持を支援する良い機会となっている。全職員は毎年の自己評価や外部評価受審を業務の振り返りと捉え、統一した質の高いケアを目指し、研修参加や自己のスキルアップにも積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフはグループホームの理念と地域密着型サービス(職員憲章等)の意義を理解しており、利用者一人ひとりの状況に合わせ、理念とプランに沿ったサービスを提供している。	職員の思いを解した理念である。入職時に説明し、念頭に置いて業務についている。会議の際や日頃から振り返りを行っている。玄関や食堂にも掲示し、訪問者にも理解してもらうようにしている。ホーム理念、法人の職員憲章や基本方針を運営推進会議の資料に掲載し啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会や運動会での交流の他、外出先では馴染みの方や子供達が声を掛け協力してくれる。又、法人主催の夏祭りやバラ祭り等を通じての知人や地域の皆さんとの交流は、この数年格段の拡がりを見せている。	地域との交流は年々活発となり、地域の子供会の訪問は定例化している。日常の挨拶や会話を積極的に行い、入居者の離設の際には地域住民の援助があっている。法人主催のイベントに地域住民の参加も増え、地域へのホームの認知度も増加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆さんの認知症等に対する相談にも応じており、ホームの施設だよりを地域(地元の3地区)にも開放し、回覧も数年前より行ってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元の運動会や祭りへの参加は、この会議での話し合いから生まれており、事業計画や外部評価内容等も報告し意見を求めている。	運営推進会議のメンバーから地域行事の情報もらい、積極的に参加し、地域住民との交流に役立っている。行事・活動状況等の紹介や入居者の状況報告、外部評価の報告等を行い、質疑応答や、意見交換により、ホームや認知症へのより深い理解へとつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎年、市主催の行事や講座に参加しており、運営推進会議へは、毎回地域包括支援センターからの出席があっている。市の担当者や市社協のケアマネジャーの訪問もあり、情報交換等を行いながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括センターの職員が運営推進会議のメンバーとして出席しており、日頃から様々な情報や連絡を取っている。行政関係職員の訪問もあり、情報交換や相談をしながら協力体制の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が十分に理解している。又、研修や学習会にも参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は研修や会議での振り返りにより、身体拘束の弊害を理解しており、拘束のないケアを実践している。言葉による拘束もしていない。車椅子使用の際にも入居者の意思を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。職員会議でも勉強会を行い、虐待ゼロに向け全員で取り組んでいます。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた利用者がこの制度を活用されており、研修会でも学んできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族の方に、十分に説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関先や法人施設にも投書箱を設置し、寄せられた意見や要望等は真摯に受け止め、改善等に取り組む体制を整えている。	3ヶ月に1回、家族へ入居者のホームでの暮らしぶりや健康状態について写真掲載の便りでお便りして報告している。面会や電話での連絡の際にも意見・要望を出しやすい雰囲気にするよう心がけ、	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームでの会議や打ち合わせには、自由に意見を出し合える雰囲気と時間がある。GHの理念は、当時のスタッフ全員の意見から生まれており、行事や環境・ケアプラン等の改善に活用し反映しているケースが多い。	ホーム長及び管理者は日頃より職員間のコミュニケーションを大切にしており、業務中や、会議などで要望や意見を把握するようにしている。解決に向けて早急に取り組む体制はできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場であり、職員の資格取得支援体制も充実している。更に、年2回の自己評価や外部評価等に取り組むことで、自己分析と共に、職場環境や意識を改革し、向上させて行くことが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、施設内研修会(事例研修発表会)を行っており、県や市主催の研修会やグループホームのブロック研修会等にも積極的に参加し、能力アップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地区のグループホーム等と定期的な交流勉強会を行ってきた。又、時には、講師を招き、問題点や取り組みの方法等を学びながら、サービス向上に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、特に注意し、時間をかけて、対話や状態観察を行ってきている。又、本人が不安にならないようにと雰囲気や環境に配慮し環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当初に限らず、その後の面会時にも家族等と相談する機会を設け、要望等を聞き、安心されるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居日やその前後に、本人や家族・担当ケアマネージャー等より情報を得、相談しながら、必要なサービス等を取り入れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	取り入れるサービスが自立支援であることを念頭に置きながら、以前からの生活や本人が得意とされていたことを聞き、教わったりしながら、関係を築いていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に(年4回)写真入りの便りを発送し、面会時にも近況報告等を行い対話に努めている。又、知人宅訪問やお墓参り・病院受診などは出来るかぎり家族支援でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の地域の知人や老人会の方、ケアマネージャー等の訪問があり、これらの方には再度の訪問をお願いし、家族にも伝えていく。	入居前に担当だった馴染みのケアマネージャーが訪問されたり、友人等の訪問がある。訪問の際には歓待し、継続して来ていただくようお願いしている。馴染みの場などへの訪問は家族にもお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	多少は相性や好みの差がでるが、生活を共にし、行動を共にすることにより、助け合いや共有の関係が出来ており、支援にも努めている。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当方からは、前入居者の方を訪ねており、必要に応じては当時の経過等を説明している。又、退所された方や家族が来荘される時もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの奥にある思いや希望する暮らし方などの把握に努め、本人の意向(困難な場合には家族としての思い等)を第一に考え支援している。	入居者本人や家族から希望や意向、生活歴などを聞き取り、会話の中で表情や反応からも把握するようにしている。それを記録し、職員間で共有している。外出の際に情報を把握できることも多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人、前担当ケアマネージャー等からの情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との対話やスタッフ間での確認・観察記録等での情報により、潜在能力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望をくみ取りながらも、利用者の残存機能をどう活用していくか、どう向き合い何を大切に取り組んでいくか等を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	毎月の会議の際にモニタリングを実施し、定期的にサービス担当者会議や計画の見直しをしている。計画作成担当者が中心となり、職員の意見を取り入れた、計画を作成している。作成した介護計画は家族にも説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受診や目立った変化等がある場合には、個人日誌の赤字の部分に書き加えるなど、本人の体調・状態の変化に応じた対応を行い、プランの見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体の施設には、多種多様のケアサービス体制が出来ており、それらを活用し、その時々生まれるニーズに対応して、生きがいを喜びを感じられる様な柔軟な支援ができるように取り組んできている。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関で適切な医療を受けられるように関係を築いており、情報も提供している。	以前からのかかりつけ医の医療を受診できるようにしているが、入居後、内科は近くの協力医療機関をかかりつけ医とする入居者がほとんどである。眼科や他科に関しては基本家族による通院介助としている。受診前・後の情報の共有は徹底して行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の個々の体調や状態の変化に応じて、適切な受診や看護支援が受けられるよう協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態変化や状況に応じて、早期の対応が出来るよう医療機関との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームへの入居時より相談し、重度化された場合のことも話し合ってきている。「終末期も、できればここでお願いたしたい……。」と希望される家族もある。	重度化や終末期に関しては入居時にホームのできること、できないことを説明し、了承いただいている。法人施設との連携体制も整備されている。常時医療が必要になった際には家族・かかりつけ医・関係者を含めて話し合いをし、家族の意思の確認をし、支援するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は職員全員が行えるよう勉強会を行ってきている。又、隣接の法人施設にはAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、法人全体で開催される消防署立ち会での避難訓練に参加している。又、地元消防団との協力体制の他、運営推進会議でも災害時の対応や協力体制等について検討を行ってきている。	隣接施設及び法人全体の避難訓練に参加している。ホーム独自の避難訓練を計画している。	計画されているホーム独自で入居者参加の訓練の実施が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳とプライバシーの保護は施設の方針でもあり、一人ひとりの性格等に配慮した言葉かけや寄り添うケアを心掛けている。	入居者の人格を尊重した言葉使いやプライバシーに配慮した対応を心がけている。視線を同じくし、優しくゆっくりとした声のトーンで会話するように努めている。個人情報の保護に関しても配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会や特別な日には本人の希望メニューを準備し、日々の暮らしやショッピング、外出時等にも、本人の思い(判断)で決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や朝食は希望される時間帯であり、起床と就寝にも時間の幅を持たせており、行事のない昼間は、各々が思い思いのペースで過ごされる日が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、行きつけの美容室に行かれたり、訪問美容(理容)を利用されたりしている。又、特別な日や外出時の化粧品や服装も相談しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューやおやつ等、相談しながら決めているし、準備や片付けなどを一緒にいき、食事と一緒にしている。又、誕生会や特別な日には、本人好みの料理を聞き、メニューに取り入れている。	入居者の好みや希望・季節感を取り入れ、献立を一緒にたて、栄養士からの助言を受けている。食材の買い物、下拵えや配膳、下膳、片づけ等をそれぞれが役割を担っている。自家菜園で採れたナスやキュウリ、緑のカーテンのゴーヤ等が食卓に上り、職員も入居者の傍らで介助しながら同じ食事を摂っている。嚥下能力に応じた食事形態で提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスや水分量に注意しながら行っている。又、季節感のある食材を取り入れ、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の洗顔とうがい、食後の歯磨きとうがい、就寝前の入れ歯洗浄を行っている。スーパーソフト水を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせ、早めの声かけと誘導、介助を行っている。全員の方が、昼間は、トイレでの排泄を維持されている。	各入居者の排泄パターンを把握しており、時間やしぐさを察知して声かけ誘導やトイレ誘導を実施している。昼間は全員がトイレで排泄されており、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使った料理と十分な水分補給・日中の運動等で、便秘予防・自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望によりいつでも気持ちよく入浴出来るように支援している。入浴中及びその前後には、見守り・安全確認に注意を払っている。	入居者の希望を確認しながら、気持ち良く入浴してもらうように支援している。拒否の方には無理強いせず、時間をあけて誘導したり、声掛けの職員を変えたりと工夫し、清潔保持に努めている。汚染の場合など状況に応じてはシャワー浴や清拭など個別に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立支援と各々の生活習慣が基本であるが、昼間の運動や入浴・活動的に過ごすこと等で夜間安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を書面で記録しており、効能や副作用等についても話し合い理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの得意分野があり、それを活用し、日々の生活の中で張りのある毎日を送られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の外出や祭り等の見学、古里訪問、散歩、茶話会などを行ってきており、ホームの周辺にはバラ園や菜園など散歩や外気浴に適した場所が多い。又、古里訪問や知人宅訪問などは家族の支援でもお願いしている。	季節毎に多くのイベントがあり、地域行事へ出かけたリドライブや買い物、法人の行事など外出の機会が多い。入居者全員で出かけることも多く、一人ひとりをより深く理解し、情報を得る良い機会となっている。外出の際の様子は写真や文書で家族に報告し、喜ばれている。	

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングや外食時等には、各々での支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物等へのお礼の他、本人の要望あれば、電話をかけ家族等と話をされる。又、年賀状を毎年出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が吹き抜けで、ニカ所のリビング(居間と食堂)がガラス越しに眺められる。光の庭や玄関の周りは、各々が一つの庭園であり、自然の光や季節の草花を楽しみながら過ごせるようになっている。	自然光を充分取り入れることができる建物の構造で、気持ち良く居心地の良い共有空間作りがなされている。ホームの外にも外気浴ができるように椅子やベンチが設置され、季節の草花や手入れの行き届いた庭園がある。中庭を中心とした回廊は入居者の歩行訓練の場所でもある。換気や室温などに配慮し、スーパーソフト水を使用し、清潔保持や除菌に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気や気候に応じて、玄関横のベンチなどで外気浴をしたり、居間のソファや食堂で、気の合った人々と思い思いに過ごしたりもされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの部屋が本人と家族の設定であり、使い慣れた家具の他、電化製品や仏壇を持ち込まれている居室もある。面会時等にはお茶を飲んだり、アルバムを見たりして過ごされることが多い。	入居の際に家族に馴染みの家具や生活用品の持ち込みをお願いしている。電化製品や椅子、それぞれ思い思いの居室作りの支援がしてある。身体状況に合わせたレイアウトをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーの構造で、見通しもよく、各々の行動や居場所も確認しやすい。歩行器を見つけ運動される人や空いている居間のソファで談話したり休息される人々もいる。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	隣接施設及び法人全体での避難訓練に参加している。 グループホーム独自の避難訓練も計画しているが、現時点(H24年10月)、実施までには至っていない。	計画しているグループホーム独自の避難訓練で、消防署立ち会いの上、入居者の参加される避難訓練を実施する。	①本年度中(平成25年3月まで)に、消防署立ち会いの上で、入居者の参加されるグループホーム独自の避難訓練を実施する。 ②避難訓練実施時、近隣の皆さんに事前連絡と協力依頼を行う。	4ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。